一般質問

○町づくりに女子力を活用すべき
○高齢者福祉施設の設置計画を
○乳幼児と周産期医療の対策は
○駅東の早急な推進を



今泉文克議員

質問　これからの町づくりには、女性の視点や意見が必要だと感じる。女子力の活用を推進すべきと思うが、地方創生推進本部には女性が入っているか。町職員の男女構成比はどうなっているのか。

総務課長　地方創生本部に女性のメンバーは、いない。職員は百名いるが、女性は20％程度となっている。

質問　町・人・仕事創生総合戦略という新しい町づくりに女性がゼロというのは、どうなのか。これからでも増員して入れるとか、何らかの下部組織に女性の意見をまとめる組織をつくる等、行政執行に女性の意見が反映するようにできないか。

総務課長　地方創生推進本部のワーキンググループは、若い人を中心に選出している。今後、女性だけの組織についても検討したい。

質問　町内には特老施設の待機者が多いと聞くが、何人いるのか。高齢化社会対策として施設拡充を図るべきではないか。

健康福祉課長　特老施設の入所待機者は79名いるが、ここ3カ年の間に須賀川岩瀬管内で30床の増床計画がある。

質問　若者が住みやすい環境とするには、雇用と子育ての場が重要であり、周産期医療と小児地域医療支援は特に大事だ。こうした医療と健康政策について推進すべきではないか。

町長　現在、公立岩瀬病院に産婦人科を開設する計画を進めている。近隣市町村が連携し、周産期医療及び小児科医療を確立させ、安心して産み育てる環境づくりを進めたい。

質問　駅東開発は災害公営住宅が建設され、念願のスタートを切った。震災や原発の避難者がこちらへ来たいということも聞いたが、これらに対する早急な対応をすべく、宅地造成を推進してはどうか。

町長　現在のところ、避難者の移転については難しいと考えている。大熊や双葉からは個人的に、当町に建築している方もいるようだ。

都市建設課長　駅東の第一工区は、災害公営住宅用地の売却代金等を資金に事業推進してきた。今後工区内にある保留地を売却して事業資金を確保し、事業を推進したい。

質問　第一工区内には27年度中には何区画できるのか。そういう具体的な数や計画が分かるようになると、紹介の話もしやすくなる。

都市建設課長　保留地については12区画を予定している。また、工区内にあるゲートボール場用地も町有地としている。

質問　区画整理地内には26haの準工業地域があり、オーダーメイド方式の開発を考えているようだが、今の経済状況では難しいだろう。抜本的に考えを変えて、早急な誘致を計画すべきでないか。

町長　住宅地の中での準工では、難しい点があると認識している。今後前に進むか、後ろに下がるのか、検討したい。

質問　町が先行取得した用地は販売見通しが不明で、塩漬け状態であり、町にとっては大きな損失である。もし、来る企業があれば土地を提供するといった大胆な施策は考えられないか。塩漬けの金利を支払うより、誘致企業の税が入った方が良いのではないか。

町長　10haの町有地は事業地内に点在しており、間に民地もあるため、まとめるための方策が必要となる。まずは、今後事業をどうするのか考えたい。

一般質問

○児童館の幅広い活用を
○滞在時間を延ばす観光目指せ
○岩瀬牧場支援策はあるか



長田守弘議員

質問　第一小学校敷地内に児童ふれあい交流館が建設されたが、駅前の児童館の現在の利用状況はどうなっているのか。

健康福祉課長　児童ふれあい交流館の開館に伴い、放課後児童クラブは児童館から交流館へ移った。児童館では主に集いの広場事業で活用しているほか、民間の育児サークルにも開放している。集いの広場では3月末で延べ466名の親子が、また、民間の育児サークルでは延べ381名の親子が利用している。

質問　各事業の日程的なものはどうなっているか。児童館は、子育て支援以外の事業では使えないのか。

健康福祉課長　集いの広場は週3日、午前10時から午後4時まで、育児サークルは月に約3回程度となっている。児童館なので、その建設目的以外には利用していない。

質問　児童館建設に係る起債償還は、現時点でも未償還部分があるのか。

総務課長　児童館は平成7年度に建設されているが、補助金が多く地方債の借り入れは無かった。

質問　補助金の制度上、児童館としてしか使用できないのか。

総務課長　児童館の補助金は国民の税金であり、原則として目的どおり使用すべきものであるが、近年は国も柔軟な姿勢を示してきている。

質問　施設としては児童館以外にも駅コミセンとしての利用や、耐震問題のある二区集会所等として利用してはどうか。

町長　放課後児童クラブはふれあい交流館で行われているので、児童館の目的外使用については可能だと考えている。

質問　田んぼアートは約4か月開催され期間が長く、来場者も多い。観光資源としては非常に有効である。観覧来場者の交通手段は、どのような内訳になっているのか。

産業課長　田んぼアートによる来町者の交通手段は約90％が自動車、徒歩・自転車が7％、電車が3％となっており、自動車が大半である。

質問　田んぼアート観覧は約15分とすると、滞在時間としては短い。町内でもう少し滞在時間を延ばし、点から線の観光事業として、経済効果も得られるような取り組みを考えているか。

産業課長　滞在時間を延ばす着地型の観光事業として田植え、稲刈りウオーキング、これに鳥見山公園等の桜やアヤメそして岩瀬牧場やオランダ祭りと、それぞれ組合せて観光事業を充実したいと考えている。

質問　町の観光資源の中心は岩瀬牧場だと思うが、震災で建物が傷んでいるようだ。町としての支援策はあるのか。

産業課長　岩瀬牧場は町としてもPRに努めている。今後も各種イベントとの連携やPR広告等の支援を考えている。

質問　タイアップ事業も良いが、岩瀬牧場は民間企業なので支援も限界があろう。敷地の一部、文化財等の部分だけでも町で購入する考えはないか。

町長　可能性が無い訳ではないが、用地の多くは須賀川市となっているため、難しい。ただし、考えられない事ではないと認識している。

